



A STAR ALLIANCE MEMBER



●Organized by : Instituto Benjamin Constant (IBC is a part of Brazil's Ministry of Education) • JADS ● In association with : Consulado Geral do Japão no Rio de Janeiro ● Sponsored by : Lufthansa • TURNER COLOR WORKS • YPP • ADAMS JAPAN ● Supported by : Yuchicom Comunicação, Comércio e Serviços Ltda. • Tokyo Association of the Blind • Art for the Light



本展のオープニングが
ご覧になります
→動画 URL :
<https://youtu.be/yYWIj7Ukqls>

(社)日本ダイバーシティアート学会
マリスアートプロジェクト（代表理事 高橋りく）

東京本部 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 7-19-15 B-3F

TEL : 03-6809-7233 phone:090-2098-3694

MAIL : info@likutakahashi.com

WEB : <http://likutakahashi.com> (高橋りく公式HP)

<http://jdas.info> (一般社団法人日本ダイバーシティアート学会公式HP)



2016 リオデジャネイロ・パラリンピック期間中アート企画

Liku Maria Takahashi
Exhibition in Rio de Janeiro 2016 9.8. - 9.23.

高橋りく個展 報告書 世界をやさしく変える現代アート

Muito Obrigada!

南米1の規模を誇る

Instituto Benjamin Constant

ブラジル連邦共和国文部省 下部組織

敷地面積2万5千平米 / 学生300人 / 中途失明者450人





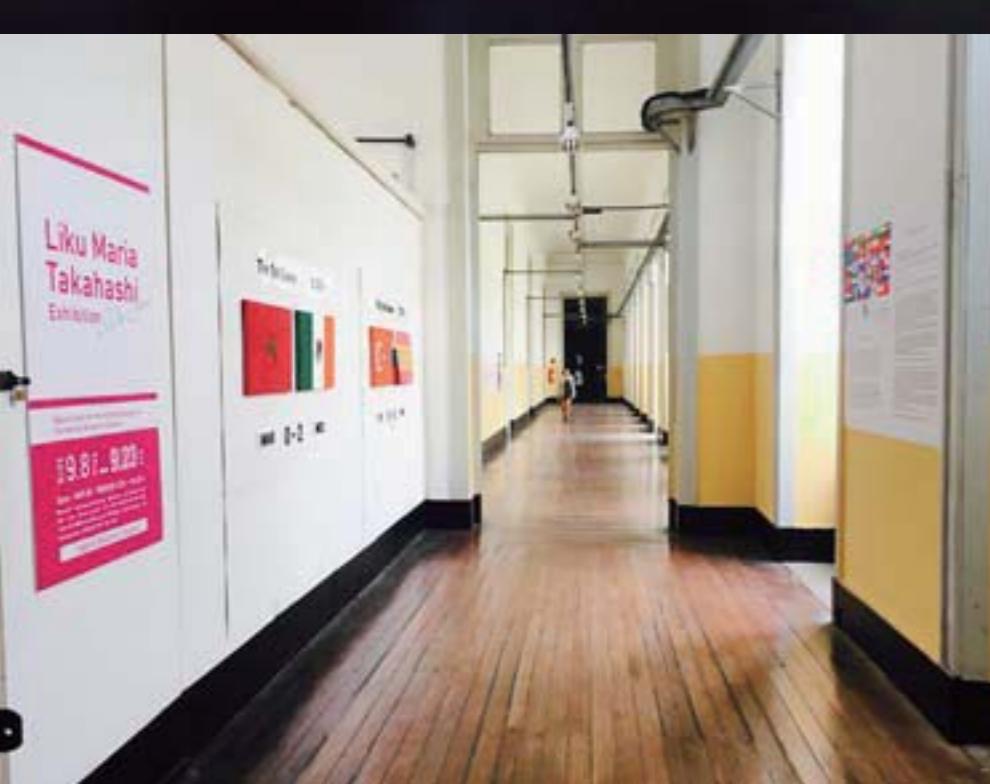
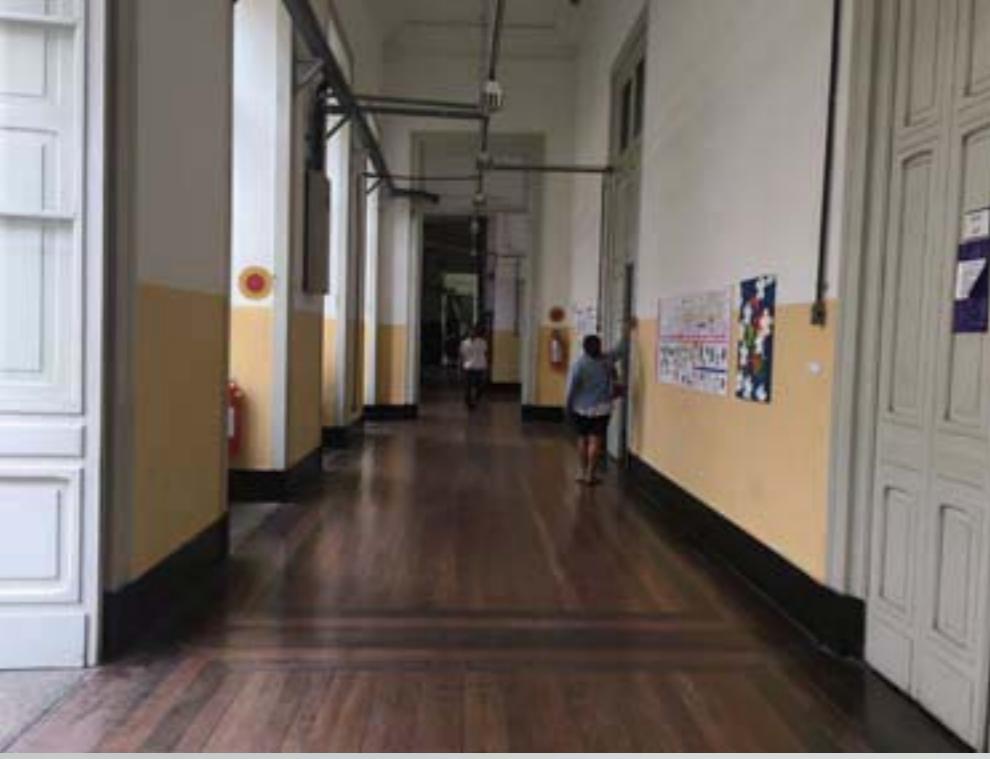
Liku Maria Takahashi
Exhibition











9/6(tue)

聖火リレー

ブラサカコーチ・ファウスト氏





個展前日となる7日の日、ベンジャミン盲学校にて聖火リレーが行われた。ブラジルパラリンピック委員会(CPB)のSelgio de Castro氏から本校の教授でもあり、ブラサカ(ブラジル)のコーチを務めるFausto Penello氏に聖火が受け継がれた。学校の英雄であるFausto氏が盲学校の子供達と一緒に校庭を歩いた。



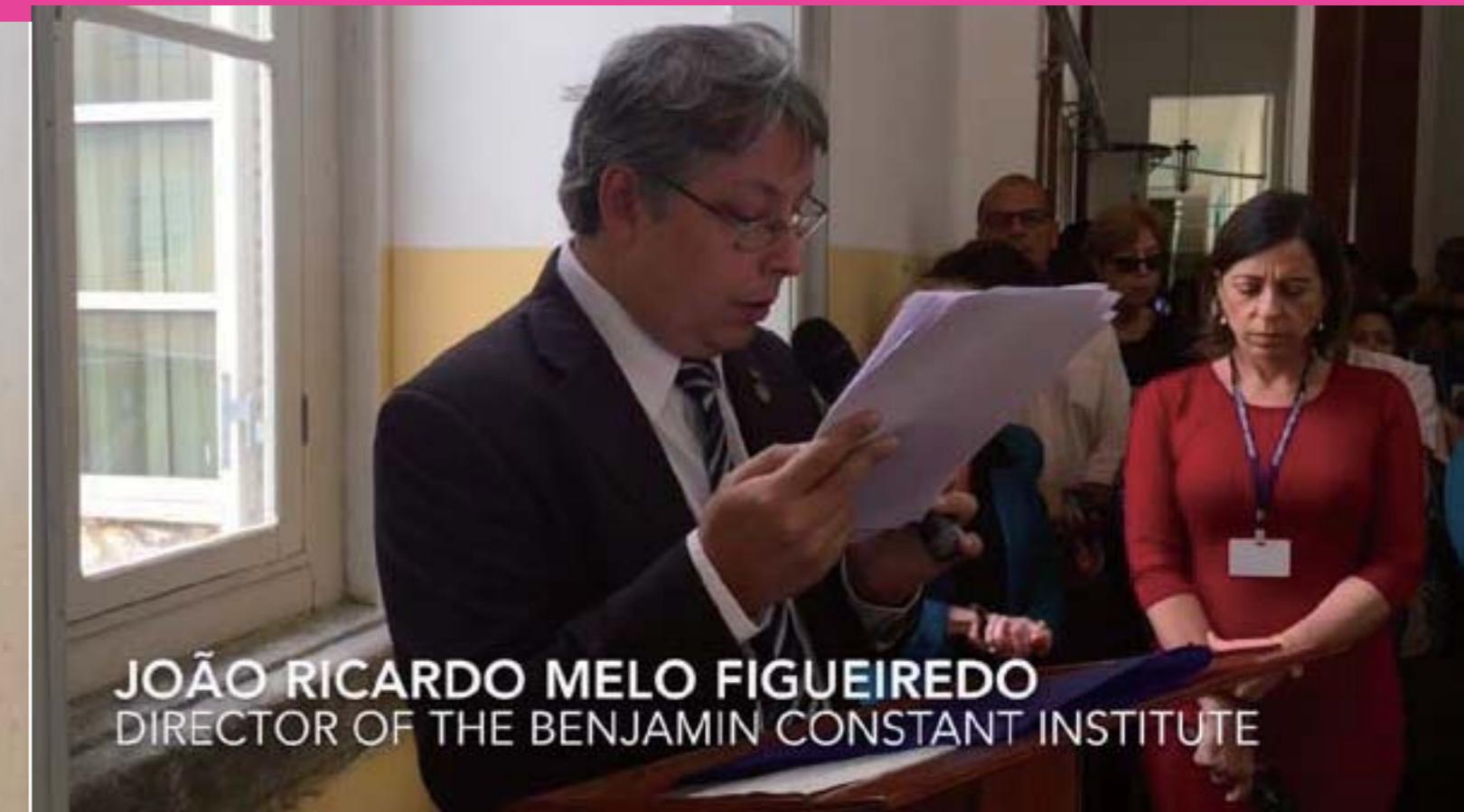
9/8(thu)

Liku Maria Takahashi Exhibition Opening Ceremony





MARIA TAKAHASHI
JAPANESE ARTIST



個展初日。ブラジル国営放送 GLOBO の撮影を受ける。当日の夕方放送された。また、地下鉄で配布される新聞に個展情報が写真とともに掲載される。
100 人を超える来場により大盛況で始まったオープニング。校長のジョアン氏、本展を企画したグローリーニャ教授からの祝辞を受ける。会場は、人がごった返し、満員状態となった。弱視の方、全盲の方の歓喜の会話が飛び交った。





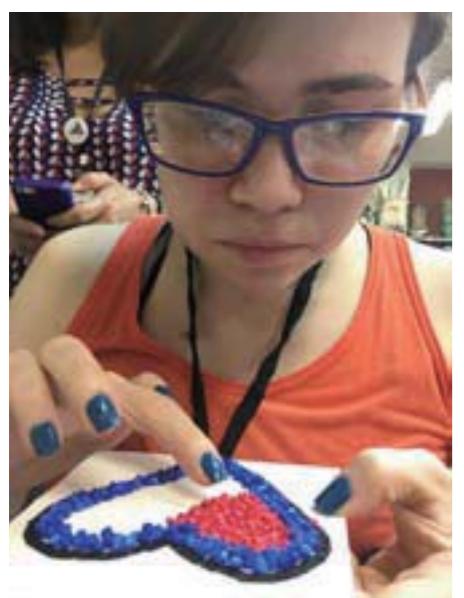
9/13,14,20,21

マリスワークショップ





4日間にわたり、マリスのワークショップを行った。みんなで一緒に作るマリス国旗と、自分の好きな絵をマリスで作る2つのコースがあり、好きな方を体験して頂いた。弱視の軽度の方から、全盲の方、聾啞の方、三重苦の方など、約20人が参加した。自分の好きな絵を描くコースでは、まずテープを用い、テープを触りながら絵を描く。そのテープを頼りに1粒1粒砂を置いていく。全盲の方の中には、まるで見えているかのように器用に砂を置いていく方も数名いた。難しいと、早々に諦めてしまう人はほとんどおらず、根気強く手の感触と僅かな光だけを頼りに砂を置いていく人が多くいた。



9/18(sat)

リオデジャネイロ日系協会での講演



リオデジャネイロ日系協会が主催するイベントにて、個展の挨拶を含めて講演の機会を頂く。定期的に開かれるこのイベントでは、子供から大人まで、約200人が参加し、日本語の○×クイズなど日本にまつわるゲームやスポーツを通して日本の文化を学んでいるようだ。



9/28(wed) パーマネントコレクション
盲学校に絵画所蔵決定

9/2(fri) 在リオデジャネイロ日本国総領事館
副領事訪問



水晶で描かれた絵画がベンジャミンコンスタン盲学校のパーマネントコレクションとなる。この絵画は、異なる2種類の大きさの透明な水晶の粒で五弁のお花が描かれている。そのため、目で見るとただの一色の絵に見えかねない。しかし、実は花と花の周りで粒の大きさが異なっている。それゆえに、目が見えない視覚障がい者が触って鑑賞するほうがわかりやすい。健常者にはわかりにくく、視覚障がい者にわかりやすい、普段とは逆転した絵画である。この絵は、盲学校の会議の場でお披露目され、大喝采の中コレクションが即決された。



本展の後援でもある在リオデジャネイロ日本国総領事館。副領事の竹屋氏と、広報担当者が個展前に訪問。領事館が発行する情報誌へのインタビューを受けた。

9/8-23

盲学校のこどもたち。

「色が生き生きしてる！」（全盲の男の子）





Muito Obrigada!



知る権利に答える義務

全盲の彼は、たくさん的人が廊下を行き交う中、一人静かに数分間の間すべてを触り続けていました。

Preliminaries

GroupA

BRAZIL (BRA)

MOROCCO (MAR)

TURKEY (TUR)

IRAN (IRN)

GroupB

ARGENTINA (ARG)

MEXICO (MEX)

SPAIN(SPA)

CHINA (CHN)

GroupA

	BRA	MAR	TUR	GF	GA	+/-	RANK
BRA		3 - 1	2	7	1	4	1
MAR	1 - 3		2	1	2	-4	4
TUR	0 - 2		2	1	2	2	3
IRN	0 - 0	0	5	2	0	2	2

GroupB

ARG

ARG

MEX

SPA

CHN

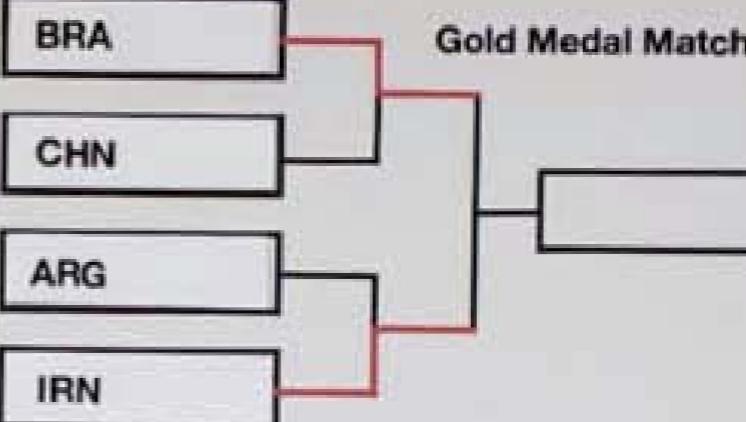
0 - 0

	ARG			+/-	RANK
ARG				0	1
MEX	0 - 2		0	5	-5
SPA	0 - 1		1	2	-1
CHN	0 - 0		3	0	2

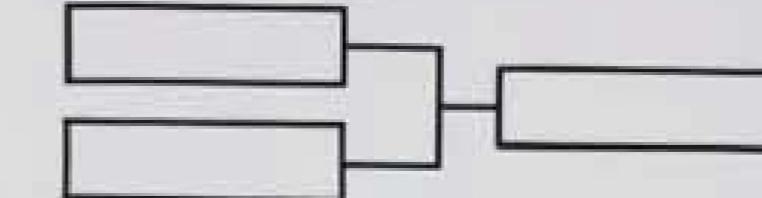


Placement

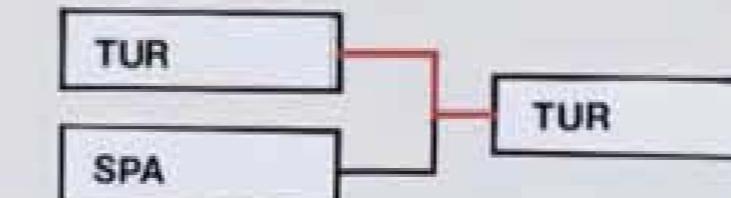
Semi Finals



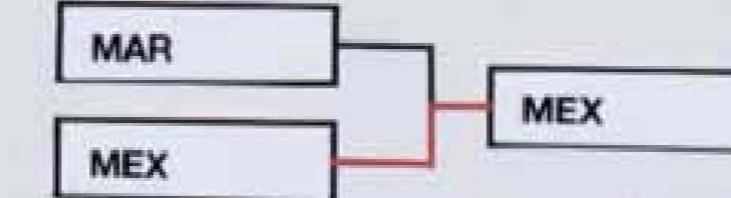
Bronze Medal Match



5-6 Classification

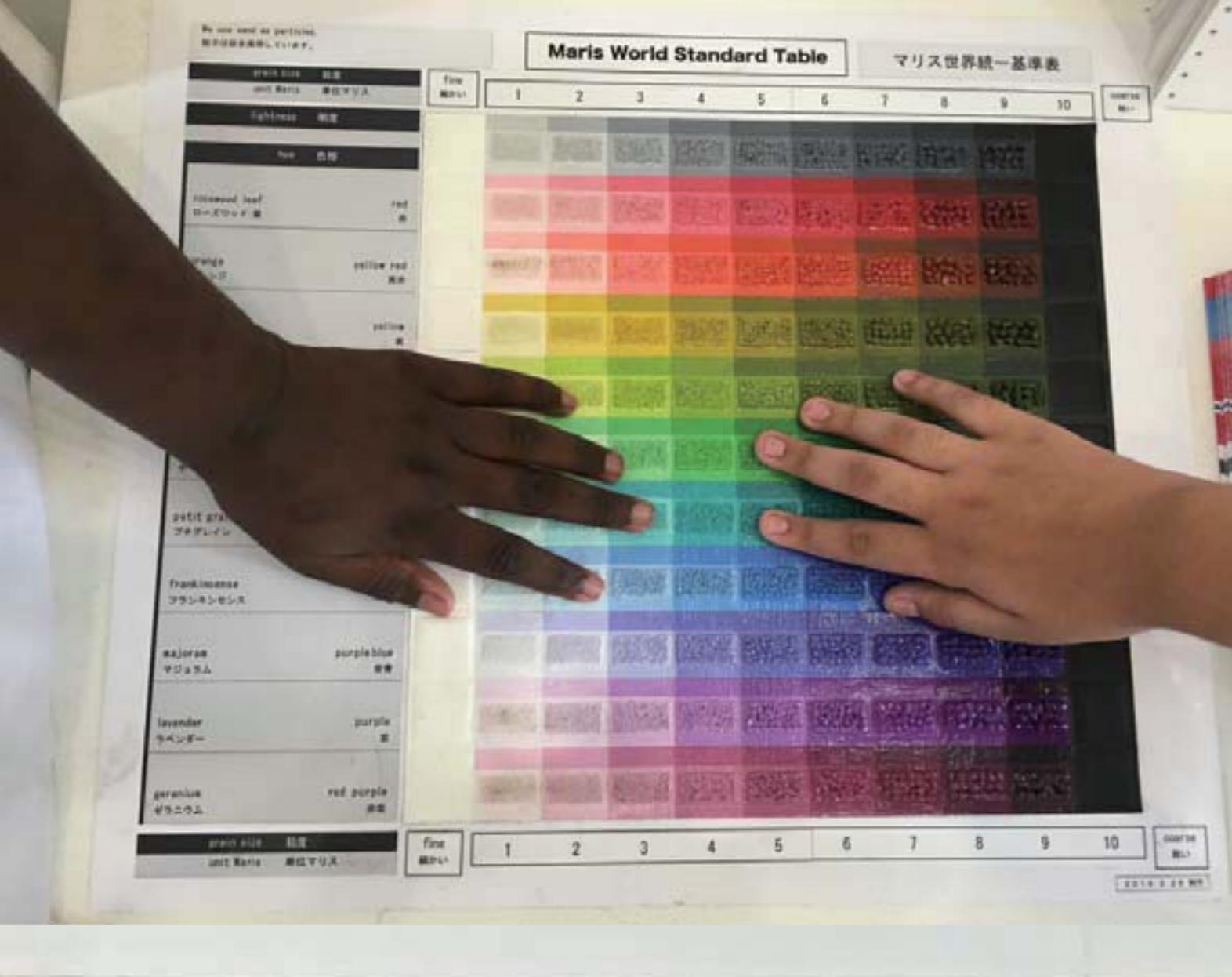


7-8 Classification









9/8-23 「こんな絵を知ることができてよかったです。
行き交う「ありがとう」



9/7,8

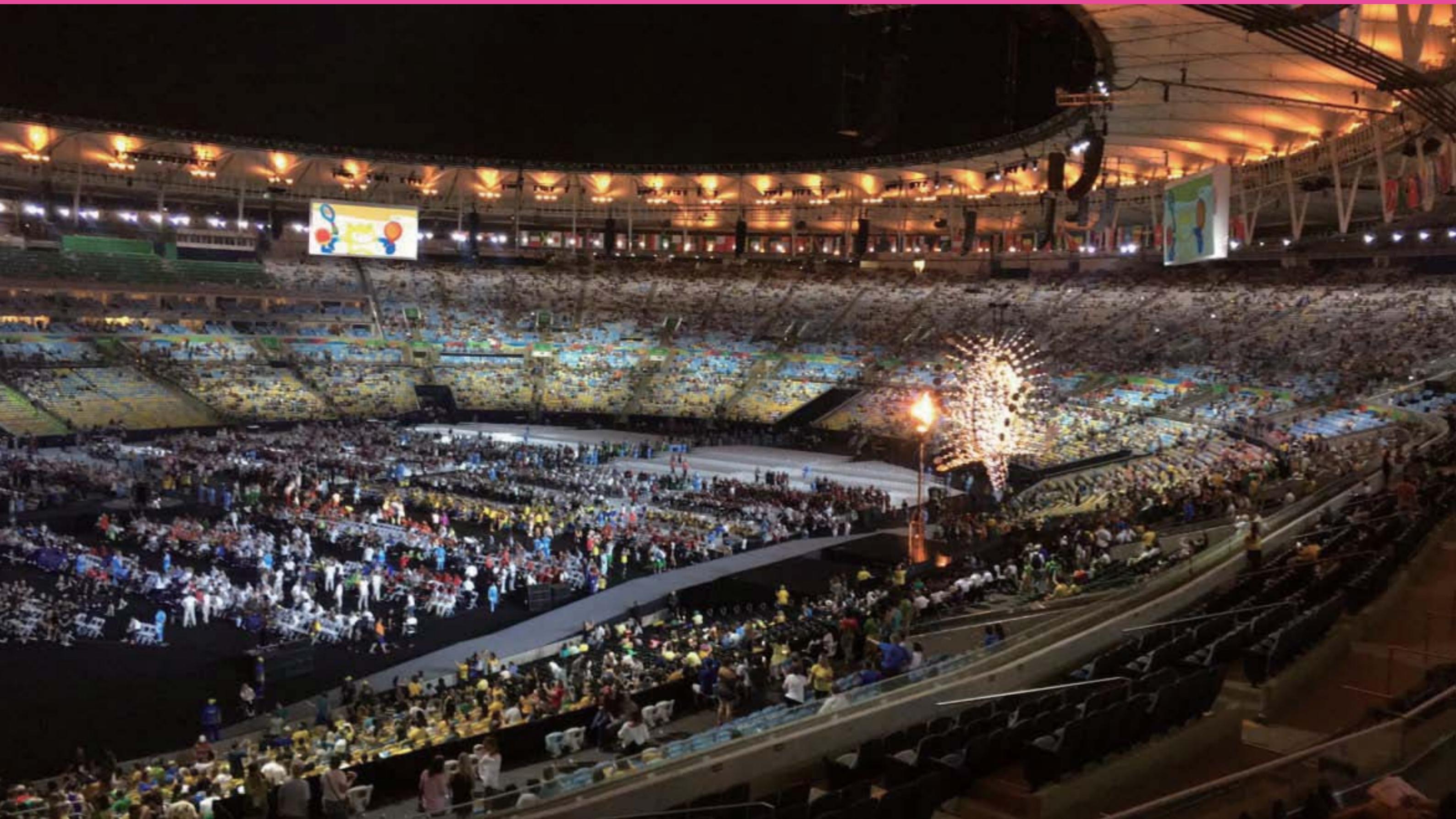
コパカバーナビーチから盲学校を
砂で繋ぐインスタレーション



世界有数のビーチの1つであるコパカバーナビーチ。ビーチから盲学校までを色砂で繋ぐインスタレーションを行った。青、黄色、緑の砂が日本とリオの架け橋となり、これからマリスが世界へと広がる第一歩となった。

9/19(sun)

パラリンピック閉会式



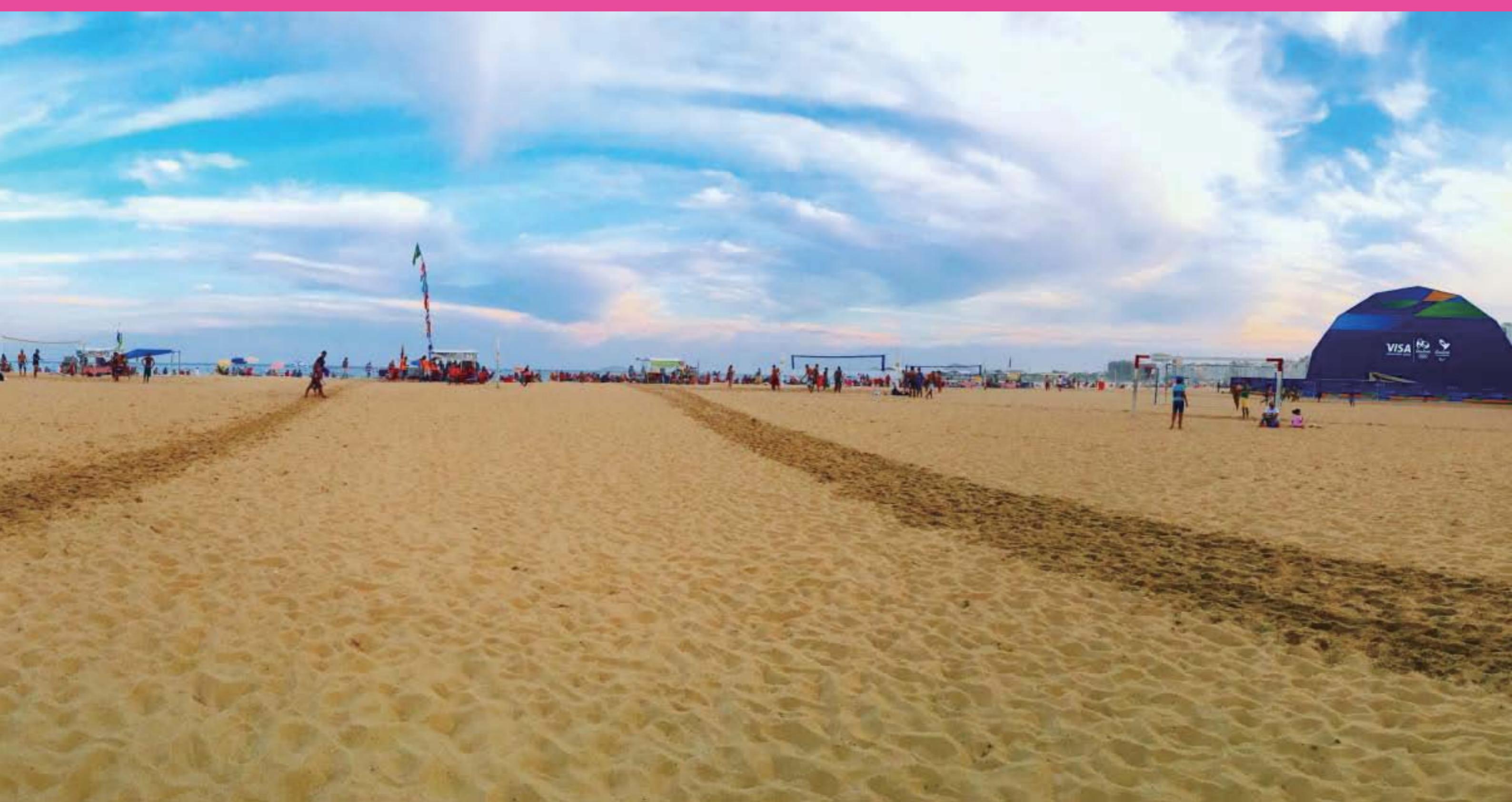


ブラインドサッカーはもちろん開催国ブラジルが優勝し、無事閉会式を迎えた。閉会式は、オリンピックのサッカー会場でもあった、マラカナン競技場。ブラジルのポピュラーミュージックを中心としたブラジルらしい演出が為される。各国入場時、日本の入場では、大きな歓声があがり、日伯の絆と次期五輪への期待が伺えた。2020の紹介では、「POSITIVE SWITCH」のコピーとともに障害を苦ともしないダンサーなどのパフォーマンスを中心に、新しい優しい世界への入り口を垣間見た。



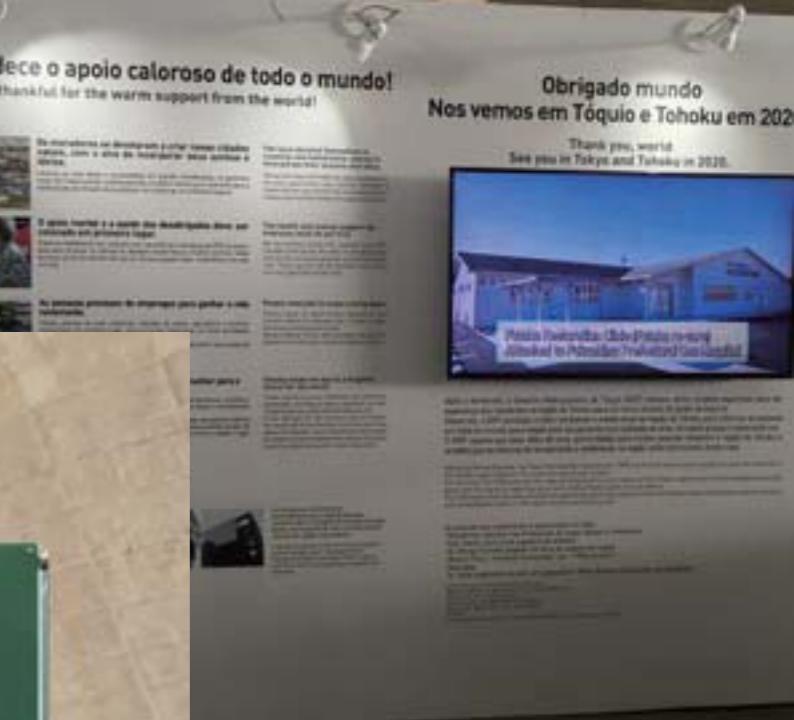
8/25-9/29

リオデジャネイロという都市

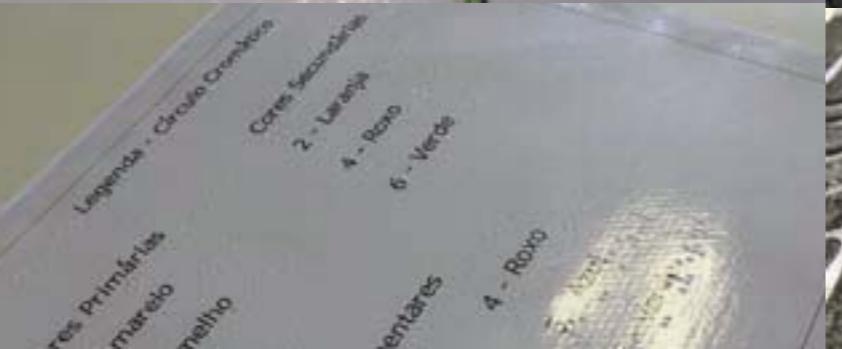
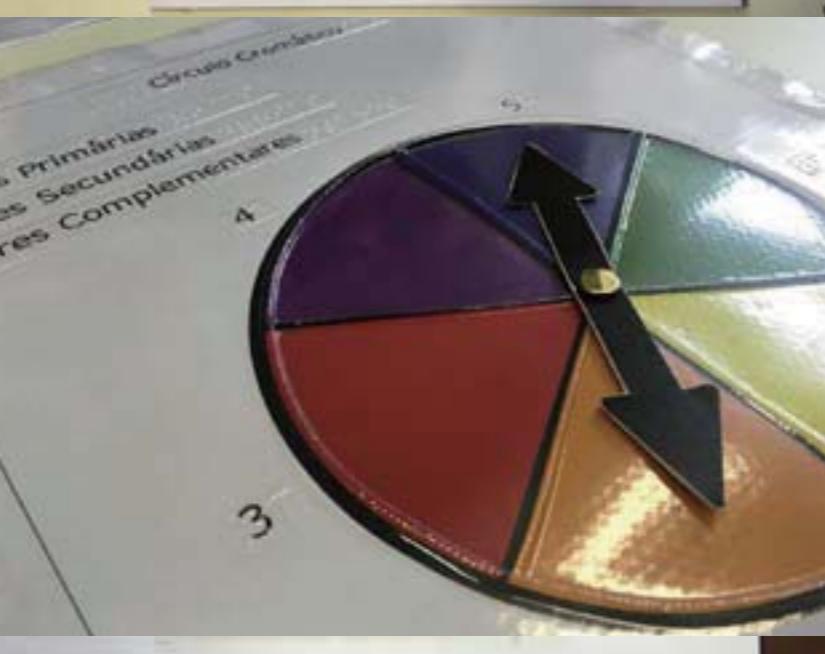
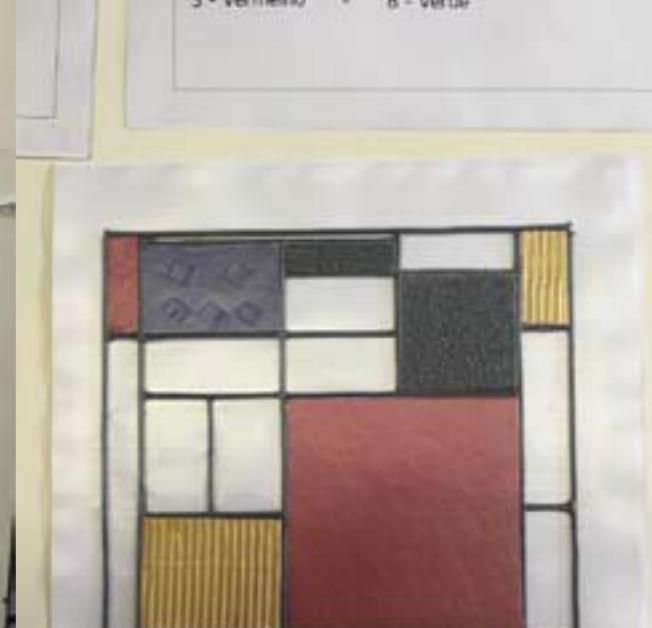
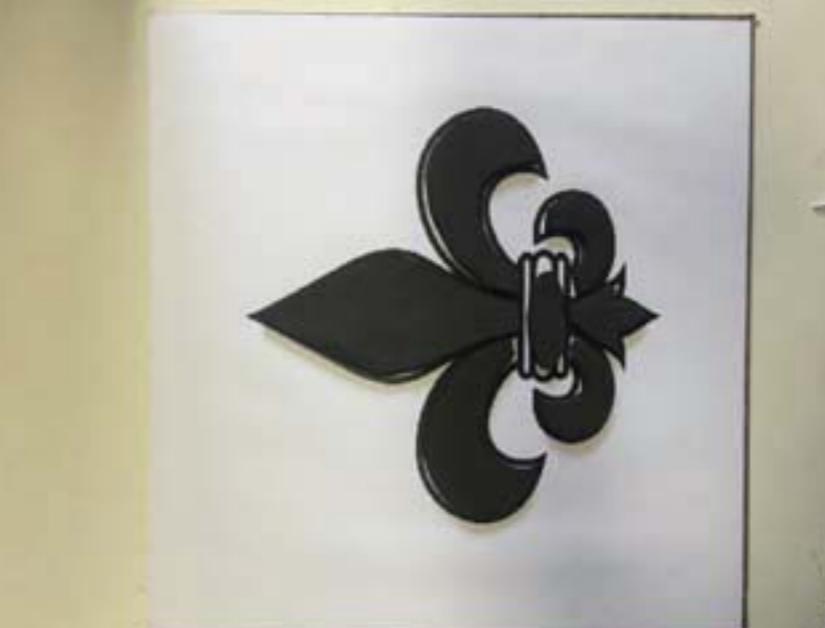




ジャパンハウス（バーハ地区）に伺った際の様子。



ベンジャミンコンスタン盲学校で使用されている教材等。



João Pec



弱視の Carlos Alberto China 氏。彼はすべての会画をくわなく鑑賞した。



ワークショップでは、丁寧で緻密に砂を置いていた。



彼が作る精巧なブレスレット



ゴロ付き折りたたみ式の白杖を
考案した全盲の方。



メリーランドにある盲学校 (The Maryland School for the Blind) の校長の訪問。

視覚障がい者の人権を訴え続ける
Maria da Gloria Almeida 教授





ベンジャミン盲学校のグロリーニャ教授は語る。「私たちはブラジルの抱える闇を訴え続けている。食べることで手いっぱいの人々が多い中で、視覚障がい者の人権や雇用問題はなかなか改善されていない。パラリンピック期間中、多くのメディアが障がい者の活躍を毎日伝えていた。しかし、大会終了と共に、テレビには健常者しか映らなくなってしまった。パラリンピックは社会をどう変えていくのだろうか、メディアに再考を求めていた。」



番外編 / ポケモンから見えるリオ



仕事終わりに集まるプレイヤー達。



この大きなスケボーがリオ 1 のポケモンホットスポットのプレイヤーの溜まり場。



プレイヤーの集まる隣では警察がこのように待機している。

8月26日、リオ・デジャネイロを再訪した。オリンピックと大統領交代の騒ぎのあと、街は少し落ち着きを取り戻したようだった。パラリンピックへ準備がすすんでいた。〈南米一危険な街〉といわれたリオだが、警官隊や軍隊が出動され、観光客や選手の安全は確実に確保されていた。ファベーラ（貧困層）の人々への配慮も感じられた。地元リオのカリオカっ子たちも、東京っ子と同じくポケモンGOを楽しんでいた。中心部の公園・プラザ 15 はポケモンGOの聖地だ。夕方5時を過ぎると、老いも若きもと i-phon 片手に公園に佇む。ポケモン希少種が出ると大勢が一斉移動、驚きである。



珍しいとされるポケモン。プラサ 15 では毎日出現するという。

おわりに

8月26日、リオ・デ・ジャネイロを再訪した。オリンピックと大統領交代の騒ぎのあと、街は少し落ち着きを取り戻し、パラリンピックの準備がすすんでいた。〈南米一危険な街〉といわれるリオだが、警官隊の他軍隊3万人が出動、観光客や選手の安全は確保されていた。ファベーラ（貧困街）の人々への配慮も厳重になされていた。地元カリオカの若者たちは東京と同じくポケモンGOに夢中だ。中心部の公園・プラサ15はポケモンGOの聖地、夕方5時過ぎには携帯を片手に人々が集まってくる。珍しいポケモンが出ると一斉に大移動を始め、一時の安全を満喫していた。

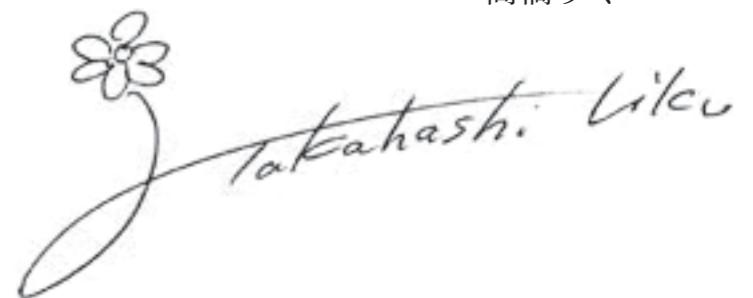
パラリンピック期間、リオ中心部付近に位置するインスティチュート・ベンジャミン・コンスタン（盲学校）に招かれ個展を行った。この学校は今年162周年をむかえ、今回のパラリンピックでは、サッカーや柔道、水泳等、たくさんのメダリストを輩出した名門校である。

個展では、障がい者と健常者が共に鑑賞できる絵画を展示。絵画作品は、目の見えない人もわかる表現を用いている。濃い色ほど大きな砂粒、というように、異なる粒度の砂で色の濃さを表わす。作品の内容は花やシマウマの絵画、世界の国旗36枚、そして特に注目が集まったのが、ブラインドサッカーのスコアボードだった。「さっき点数が入ったんだよね」「昨日は中国とやって勝ったんだよね」試合状況をリアルタイムで伝えるスコアボードの前で、弱視と全盲の子が会話を弾ませていた。子どもたちをはじめ、家族、友人、学校関係者、日系の方々、パラリンピック関係者等、多くの人に来場をいただいた。本展はパラリンピック初日にTVブラジルの夕方ニュースでも紹介された。会期中特に印象に残ったのは、一部の子どもが毎日お気に入りの絵を見に来ること、そ

れも彼等がまだ見に来ていない新たな友人をギャラリーに誘って訪れてくれたことだ。連れられて来た子達がまた自分の友達を連れてくる。絵画鑑賞に慣れていない彼等に新しい文化ができた。

残念に感じたのは、健常者の姿が少なかったこと。私のプロジェクトは福祉活動ではない。このままの健常者の無関心さでは2020東京パラリンピックも心配だ。私は現代アートから社会を変えたい。いかに鑑賞者の心を動かすかに重点を置いている。《目の見えない人も一緒に絵画を鑑賞することから、障がい者の人権を考える社会構築への啓蒙をしていく。》ベンジャミン盲学校のグロリーニャ教授は語る。「私たちはブラジルの抱える闇を訴え続けている。食べることで手いっぱいの人々が多い中で、視覚障がい者の人権や雇用問題はなかなか改善されていない。」パラリンピック期間中、多くのメディアが障がい者の活躍を毎日伝えていた。しかし、大会終了と共に、テレビには健常者しか映らなくなった。パラリンピックは社会をどう変えていくのだろうか、メディアに再考を求めたい。一人一人の意識改革のためには個人の小さなボランティア参加の積み重ねが必要だ。もっと東京は優しい街に姿を変えられるはず。今までボランティアには縁がなかった高校生、大学生や社会人層の参加が、2020オリンピック・パラリンピック成功の鍵を握っている。

高橋りく

A handwritten signature in black ink, reading "Takahashi Riku", featuring a stylized flower-like flourish at the beginning.



Liku Maria Takahashi Exhibition
in Rio de Janeiro

- 日時：2016.9.8(木)~9.23(金)
- 開館時間：AM9:00~AM16:30 (9/8 → 10:30~)
- 会場：ベンジャミンコンスタン盲学校
- 休館：土日
- 料金：無料
- 会場住所：Av. Pasteur, 350 / 368 - Urca - Rio de Janeiro - RJ -
- CEP: 22.290-240 Tel: (021) 3478-4442

主催：ベンジャミンコンスタン盲学校、日本ダイバーシティアート学会

後援：在リオデジャネイロ日本国総領事館

協賛：ルフトハンザ航空、ターナー色彩株式会社、山田写真製版所、アダムスジャパン

協力：Yuchicom Comunicação, Comércio e Serviços Ltda.、

東京都盲人福祉協会、日本視覚障害者芸術文化協会

- date : 2016.9.8(thu)~9.18(fri)
- Open : AM9:00~AM12:00(9/8 → 10:30~)
- Venue : Instituto Benjamin Constant
- closed : Saturday and Sunday
- fee : free
- address : Av. Pasteur, 350 / 368 - Urca - Rio de Janeiro - RJ -
- CEP: 22.290-240 Tel: (021) 3478-4442

● Organized by : Instituto Benjamin Constant (IBC is a part of Brazil's Ministry of Education)

The Japan Diversity Art Society (JADS)

● In association with : Consulado Geral do Japão no Rio de Janeiro

● Sponsored by : Lufthansa • TURNER COLOR WORKS • YPP • ADAMS JAPAN

● Supported by : Yuchicom Comunicação, Comércio e Serviços Ltda.

Tokyo Association of the Blind • Art for the Light

本展開催につきまして、皆様には多大なるご協力を頂き、誠に感謝申し上げます。
今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

高橋りく個展 報告書
発行 2016/10/12
発行者 一般社団法人日本ダイバーシティアート学会
本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、
著作権法上の例外を除き、禁じられています

一般社団法人日本ダイバーシティアート学会マリスマートプロジェクト
TEL:09020983694
MAIL:sunaemap@gmail.com
HP URL:likutakahashi.com(高橋りく HP)
jdas.info (一般社団法人日本ダイバーシティアート学会公式 HP)

The Japan Diversity Art Society
B-3F 7-19-15 Okusawa, Setagaya-ku, Tokyo, Japan 158-0083

TEL:+81-3-6809-7233

phone:+81-9-2098-3694

Mail:info@jdas.info

<http://likutakahashi.com> (Liku M. Takahashi Official Web Site)
<http://jdas.info> (The Japan Diversity Art Society Official Web Site)

memo

memo

ありがとうございました